



### 地域に根ざした試験研究機関をめざして

所 長 濱石 和人

このたび、4月1日付けで当センター所長を拝命しました。前任者の伊藤所長同様、よろしくお願い申し上げます。

今日、国際競争の激化、高度情報の急速な進展、少子・高齢化時代の到来、地球規模での環境問題の顕在化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しつつあります。最近においては、景気も上向き傾向を示すとされています。中でも、自動車産業などが活況を呈し、これらが集積する地域では有効求人倍率が1.0倍を超えていますが、当県では昨年度に比べると回復傾向にあるものの0.6倍を下回るなど依然として厳しい状況にあります。このような中で活力ある当県経済の持続的な発展を図るためには、研究開発を積極的に進めながら、独自技術による地域技術の高度化や高付加価値製品の開発及び新しい産業の創出に向けた取り組みが求められています。

県では、平成13年度から平成22年度の「21世紀新かごしま総合計画」を作成し、県政展開方策の1つに「創造性に満ちた多様で活力ある工業、商業・サービス業の振興」を掲げています。また、平成18年度における商工労働部の重点的施策の戦略的産業振興として、県内産食品を活用した機能性食品の事業化のための研究開発等を支援し、新事業・新産業創出を促進する「かごしま食のいいものづくり支援事業」や県内自動車関連産業の技術の高度化や付加価値の高い製品の開発を支援すると共に、連携ネットワーク形成等を通して、関連産業の裾野を広げ、将来に向けた集積を促進する「自動車関連産業ステップアップ支援事業」等に新たに取り組むこととしています。

当センターでは、これら県の「21世紀新かごしま総合計画」に基づき、県内中小企業などの「技術的拠りどころ」を基本理念に、研究開発と技術支援を2本柱として事業運営に努めます。研究開発では、地域資源の高度利用、生産・加工シ

ステム、新素材・新材料、バイオテクノロジー・食品、電子・情報、環境・生活・デザインの6分野を重点分野として取り組みます。技術支援では、技術相談、依頼試験・分析、人材育成、技術情報提供、コーディネートなどの一層の充実に努めます。

最近の研究成果が事業化または商品化につながった例として、「シラス利用の緑化基盤」、「さつまいもを利用したドレッシング」、「バルーン製造装置」などがあります。技術支援では、「黒糖焼酎粕を利用した健康酢の商品化支援」、「CD再研磨装置の開発支援」、「スギ中小断面集成材の企業化支援」、「木竹炭ボードの企業化支援」、「仏壇のレーザー加工技術による製作支援」、「カヤックの加工支援」などがあります。これらは、企業ニーズを基に進められた研究や技術支援の成果であり、直ちに実用化、商品化され、新規事業への展開や新商品として販売されております。

今後は、更に企業や市場ニーズの把握に努め、市場性・経済性・社会性のある研究開発を産学官連携を図りながら積極的に実施し、中小企業などが取り組む高付加価値製品・新技術の創出に貢献して参ります。

そのためには、研究成果が実用化に結びつくよう知力を結集し、鹿児島県の産業支援機関である（財）かごしま産業支援センターをはじめ関係機関との連携強化を図ります。また、大学など学術研究機関との連携も深めながら、社会や経済の変化に対応できる足腰の強い「地域に根ざした試験研究機関として」の工業技術センターをめざして参ります。

そして、これまで以上に県内中小企業の「技術的拠りどころ」としての使命を果たしたいと存じます。

どうか関係各位の御支援・御協力をお願いいたします。